

業務実績評価（自己評価）における プロセス評価等を行った業務の概要

1 調査研究業務（肥料関係業務）

評価書P14

評価

A

- ・苛酷試験法の試験操作の動画を作成して、Web上で公開し試験法を普及
- ・肥料等試験法の改良のため、動画視聴者からの提案・要望などを聴取

背景・課題

肥料の製造・流過程での成分低下を確認する統一的前処理方法が定められていない

肥料事業者から要望を受け前処理方法として「苛酷試験法」を開発し、肥料等試験法（2024）に収載

・統一的前処理方法の普及に向けて苛酷試験法の周知が必要

取組の内容

動画活用による苛酷試験法の周知

- ・苛酷試験法を正しい手順で実施できるよう、試験操作の要点をわかりやすく解説した動画を作成
- ・くり返し視聴できるように動画をYouTubeで公開
- ・肥料協議会で動画を用いて試験法を解説



情報収集

- ・動画視聴者から、試験法についての要望等を聴取
 - 改良すべき点の提案
 - 分析時間の短縮要望など（7件）
- ・意見交換を実施し、多様な肥料組成に対応する試験条件を整理

成果・効果

苛酷試験法の理解と普及を促進

- ・肥料協議会で幅広く事業者へ周知：112社
- ・YouTube再生回数：140回

苛酷試験法の普及により試験法の統一が図られ流通肥料の品質確保に貢献

試験法の充実を推進

今後の試験法の改良点や追加すべき試験条件を把握
→肥料等試験法（2025）に反映予定

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

1

2 農薬の再評価に係る審査業務

評価書P19

評価

—

- ・蜜蜂影響評価において、農林水産省の調査審議を強力に支援
- ・蜜蜂影響評価の円滑化に貢献

背景・課題

再評価の実施

- ・2018年の農薬取締法改正を契機に、ミツバチへの影響評価を充実させるとともに、2021年度から再評価を実施

ネオニコチノイド系農薬のミツバチへの影響評価

- ・ネオニコチノイド系農薬は、果樹や野菜等に広く使用されている殺虫剤
- ・EUではミツバチへの影響により、屋外での使用を制限
- ・イミダクロプリドの影響評価を開始（2023年2月～）

取組の内容

膨大な試験データ等の確認

- ・一部の作物について、植物学・栽培学の基礎情報を収集し、ミツバチが訪花しない作物を整理

例：「ふきのとう」は、開花時期にミツバチが訪れないことを確認



- ・数百にも及ぶ使用方法（使用する作物・使用時期等の組合せが様々！）について、農薬のミツバチへの暴露量を精緻に計算



- ・検討の過程及び結果は、評価書の本体及び参考資料に詳細に記載

成果・効果

科学的な審査

- ・FAMICが計算した結果を基に審議会※で科学的に審査

※農業資材審議会農薬分科会 蜜蜂影響評価部会

- ・百ページを超える評価書案として公開

農林水産省を強力に支援

- ✓ ミツバチの影響評価の円滑化に貢献

- ・今後、他分野の審議を経て、再評価が終了する見込み

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

2

3 農薬の登録審査に附帯する業務

評価書P20

評価

A

- ・FAMICの知見、技術を活かした**受入研修及び短期専門家派遣を実施**
- ・ベトナム国の**農薬行政の国際調和**に貢献、FAMICの**技術向上・人材育成**にも効果

背景・課題

ベトナム国の現状

- ・農業は基幹産業
- ・**食品安全管理体制は未熟**
…分析機関の運営、技術、検証や指導などの仕組みが非統一

認証検査機関
RETAQ※設立

※ベトナム国農業農村開発省の傘下で
食品検査や研修を行う機関

- ・**RETAQ能力強化のための支援を我が国に要請**
- ・茶の残留農薬分析の**技術移転**をFAMIC農薬部門が担当

取組の内容

受入研修

- ・LC-MS/MSによる残留農薬の多成分同時分析法の**基礎的な原理**を、SOP（標準作業手順書）の確立している日本の緑茶を試料として指導。
- ・ベトナムの半発酵茶へ適用できるよう、日本の緑茶の商品特性も教授

短期専門家派遣

- ・各々の分析条件の検討と技術習得及び**SOPの作成**
- ・安価で簡便なQuEChers法と夾雑物に強いFAMIC法とを融合させた**新たな試験法の開発**
- ・RETAQでの**ISO17025**における試験法としての登録予定

当初予定以上の成果

成果・効果

RETAQの今後

- ・統制されたSOPの整備により**コンサル機能を強化**
- ・RETAQが主体となった**統一的なリスク管理体制の確立**を期待

ベトナム国の今後

- ・食品の安全性の向上
- ・農産物の輸出拡大

農薬行政の国際調和に貢献

FAMICへの波及効果

- ・残留農薬分析**技術の向上、人材育成**

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

3

4 F A M I C 主体の農薬GLP講習会の開催

評価書P22

評価

A

- ・農薬GLPへの理解を深め、かつ現場のニーズに合致する講義内容とし、参加しやすい**ハイブリッド型**で初開催
- ・受講料及び録画映像の販売料により**自己収入を確保**

背景・課題

農薬GLP調査の現状

- ・試験施設への農薬GLP調査において、一定の不適切な逸脱事項が認められる
- ・試験施設から、農薬GLP基準、不適切な逸脱事項、OECD GLPガイダンスについて**講習してほしいとの要望**
- ・FAMICの調査経験、現場の声を取り入れた、**新たな講習会開催の検討**

取組の内容

農薬GLP講習会の開催準備

- ・肥料安全検査部の**既存の講習会実績を参照し**、規程を整備
- ・開催時期及び方法等について**関係団体と意見交換**を実施
- ・**現場のニーズを反映**した講義内容
 - ▶よくある逸脱事例と対策
 - ▶GLP基準やガイダンスの重要ポイント
- ・より多くの職員が受講できるよう**受講単位を組織とする**とともに、**来場及びオンライン**のハイブリッド型で初開催
- ・後日聴講により振り返りや組織内共有できるよう、**録画映像も販売**

成果・効果

農薬GLPについての理解向上

- ・農薬GLP適合確認施設や、農薬以外のGLP施設も含め、**53組織**が参加
- ・講習会を通じて農薬GLPの理解を深め、試験施設間でも情報を交換することで、**特定試験成績の信頼性の確保に貢献**
- ・有料講習会の開催を通じて**自己収入を確保**



Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

4

5 講習会を通じた残留農薬分析技術の普及

評価書P23

評価

A

- ・FAMICの残留農薬分析技術に関する知見を、必要とする現場へ直接普及
- ・新たなテーマで2通りの開催により幅広い受講者層に対応し、自己収入増額に貢献

背景・課題

- ・従来より、残留農薬分析についての講習会実施の要望あり
- ・都道府県等の農薬分析技術力の縮小により国等による講習会に期待感

新たな講習会実現により社会貢献できる

取組の内容

- ・既存の主催講習の枠組みを活用し、残留農薬分析技術に関する新たな有料講習会として企画、実施
- ・受講者層に合わせ、内容構成を変えた2通りの講習メニューを用意
- ・従来からの対象者に加え、食品衛生監視従事者、病害虫防除業務従事者、農薬業界関係者まで範囲を拡大

残留農薬分析基礎研修

- ・1日間、座学
- ・地方公共団体職員等研修の枠組みを活用

残留農薬分析技術研修

- ・3日間、実地研修
- ・技術講習会の枠組みを活用
- ・職員が1対1で丁寧な対応



成果・効果

- ・技術的知見の普及という受講目的に合致し、充実した内容に受講者から高い満足度
- ・講習の継続希望
- ・FAMICの分析技術を都道府県担当者や事業者へ提供し、農薬生産資材の安全等の確保に寄与
 - ▶検査結果に基づく農薬の適正使用指導、
 - ▶違反事案の減少に期待
- ・継続的な自己収入源としても期待

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

5

6 大臣確認検査業務（飼料関係業務）

評価書P28

評価

S

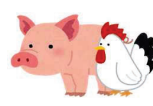
- ・円滑な牛肉骨粉の流通に向け、省令改正後30業務日で全国77事業場の製造状況確認を迅速かつ効果的に実施

背景・課題

- ・BSE飼料規制を緩和し、牛肉骨粉が豚鶏用飼料に利用再開
- ・事業場をFAMICが検査した上で農林水産大臣の確認が必要

円滑な流通再開のためには需要側・供給側それぞれの申請の多数同時処理が必要

検査の迅速かつ効果的な実施が課題



豚鶏農場へ流通

取組の内容

- ・検査合理化：飼料等立入検査業務の年間計画で低リスク事業場の頻度低減、計画検査と大臣確認検査を同時実施、さらに、GMP適合確認での検査結果を利用
- ・事務効率化：事業者の申請意向のきめ細かい把握、グループウェアでの進捗管理・適否判定の平準化
- ・業務量分散：分析業務のセンター間の分担を従来の月単位から週単位で調整
- ・予算・業務量の逼迫を招かないようマネジメントしつつ、迅速に申請書及び判定結果を農林水産省に進達

成果・効果

- ・10月3日に省令改正／申請受付開始後、30業務日で全国の14レンダリング工場、63配合飼料工場の手続を実施。農林水産省は、12月26日付けで一斉施行
- ・その後も申請に応じて対応し、年度内に計87件の手続を実施
- 令和7年1月より飼料用の牛肉骨粉流通が再開

- ・安全な国産たん白質資源の普及
- ・焼却処分に係る国費の削減

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

6

7 国際関係業務（飼料関係業務）

評価書P35

評価

A

- ・WOAH-CCとしての活動計画に加え、上半期に集中した諸外国等の要請に応えるため、準備作業の効率化・合理化を図り、要請のすべてに対応

背景・課題

WOAH-CC（国際獣疫事務局）ラベリング・センター）年間活動を計画

- ・技術研修開催
- ・ラボネットワーク参加各国の飼料検査に関する調査結果等の情報発信

年度上半期に…

諸外国等からの要請が急増

- ・技術支援・見学対応要請（4件）
- ・WOAH主催会議出席

通常業務を遂行しつつ
多くの国際関係業務
に対応する必要

取組の内容

要請に応えるため…

準備作業の効率化・合理化

研修内容、説明原稿及び資料・動画の作成等の準備作業において

- ・テーマが共通である2件の研修内容を極力連動
- ・既存の動画・資料の有効活用
- ・各研修・見学で共通となる業務説明資料は部分修正により再利用

対応に必要な人員・時間の確保

- ・開催時期が調整可能な要請は業務繁忙期を避けることで職員負担を回避
- ・他課・他センターでの共通業務を分担調整し、負担を平準化

成果・効果

- ・年度当初の活動計画に加え諸外国等からの要請のすべてに対応

- ・技術支援や研修内容に対し参加者から高評価

飼料の安全と分析分野のWOAH-CCとして、



- ・アジア太平洋地域各国との連携強化

- ・飼料に関する積極的な情報発信によりFAMICの存在感をアピール

世界における飼料の安全確保に貢献

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

7

8 調査研究業務（飼料関係業務）

評価書P37

評価

A

- 依頼分析への協力やネットワーク構築等の結果、FAMICとして初めてコンソーシアム参画を伴う共同研究を締結

背景・課題

分析法開発への課題

- ・技術の進歩に対応するため、知識・技術のアップデートが必要
- ・立入検査等の他業務と併行して調査研究を実施する必要
- ・新たな調査研究を行う資金・人員が不足

R4



- ・研究資金を獲得し研究開発事業に参画できる体制を整備！

しかし…コンソーシアム参画を伴う共同研究の実績なし

共同研究締結を目指し…

外部機関との関係構築

- ・研究機関からの依頼分析に協力(R3~)
- ・農研機構駐在(R3~)や学会活動(H28~)によるネットワーク構築



共同研究の申し出に積極的に対応

- ・食品分野の研究にも、飼料への応用を視野に、前向きに協議に参画
- ・通常分析と併行し、効率的に実施できる研究分担を提案

成果・効果

FAMICとして初めて
コンソーシアム参画を伴う
共同研究（農研機構主体・
食用昆虫事業）を締結！

令和7年度、新たに
1件の共同研究の実施が
決定！



- ・今後の成長や飼料への利用が期待できる食用昆虫関係の知識・技術の向上と研究ネットワーク拡充
- ・研究資金の獲得

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

8

9 食品表示法に基づく立入検査等業務

評価書P40

評価

A

- ・研修等で培った科学的知見により立入検査時の写真から新たな疑義を確認
- ・複数の疑義情報を得ることで、立入検査を有利に展開して早期に全容解明

背景・課題

- ・モニタリング検査（分析）で、疑義が確認された場合は、農政局・FAMIC合同で立入検査を実施
- ・製造記録、帳簿等の書類確認といった社会的検証による疑義解明が困難な場合があり、FAMICが保有する科学的知見の活用が求められている

そこで・・・
科学的知見の効果的な活用方法の検討や職員への普及に取り組む

取組の内容

分析に関連する科学的知見の習得

- ・職員は研修により、**外観からの魚種等の推定方法**を習得
- ・日々の検査で検査マニュアルを用いた外観検査を実践

立入検査への活用

- ・イクラの魚種表示の疑義で立入検査を実施したが、社会的検証が困難となり疑義解明の遅れが懸念された
- ・現場で撮影した**国産**のサバ加工品の写真に**日本には生息していないサバ**の特徴をFAMIC検査員が**確認**
- ・機動的に**買上げ・分析**したところ、国産表示の**疑義を確認**

成果・効果

- ・FAMICの科学的知見を活用し複数の不適正表示の情報を得ることで**立入検査を有利**に展開して早期に**全容解明**（R6平均立入検査業務日数112日対して63日で解決）
- ・4商品の**食品表示基準違反を確認し**、農林水産省が指示公表
- ・FAMICの培う科学的知見と農林水産省との**連携**により**立入検査能力の向上**・さらなる**食品表示の適正化**に貢献

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

9

10 調査研究業務（食品表示監視業務）

評価書P43

評価

A

- ・分析法開発のノウハウ等を活かして、企業の新たな分析法の開発に貢献
- ・同時に**遺伝子解析分野**における**先端技術・知見**を習得

背景・課題

FAMICの課題

- ・分析技術は日進月歩で開発が進んでいるが、**先端技術の習得**に課題
- ・財務体質の改善のため、**自己収入の確保**が必要

協力！

企業の課題

- ・開発する新たな分析法の**実用化**に課題
- ・分析法の妥当性確認のため複数の**試験室**、力量を持つ**人員の確保**が必要

取組の内容

受託調査分析契約を締結

- ・最先端の遺伝子解析技術を有する**大学発のスタートアップ企業と契約**

- FAMICが有する
 - ・複数の試験室と力量を持つ人員
- ・**分析法開発のノウハウ**

Win-Win !

- 企業が有する遺伝子解析分野の**先端技術に関する知見**

共同試験への参画

- ・試験計画について助言
- ・実用化に向け、FAMICの**3センター**が共同試験に参画

成果・効果

社会への貢献

- ・問題点のフィードバック等を通じ、**新たな分析法の実用化**に貢献

FAMICへの効果

- ・職員の遺伝子解析分野における**技術力向上**
- ・得た知見を表示監視業務の**分析法開発**に応用
- ・**自己収入確保**に貢献（令和7年度も継続予定）



Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

10

11 JASの制定等に係る業務

評価書P47

評価
A

EUとの有機同等性協議に対応し、**対象範囲の拡大**と、有機加工食品の**原料原産地の制限撤廃が実現**。EUへの輸出力強化に大きく貢献。

背景・課題

EUでは有機食品が人気

- ・アメリカに次ぐ有機食品市場
- ・健康志向、自然志向が益々高まっている

しかし・・・

- ・EUとの有機同等性は、有機農産物と有機農産物加工食品に**限定**

- ・有機加工食品については、原材料が日本産及び日本の有機同等国※産のものに**限定**

※アメリカ合衆国、アルゼンチン、英国、オーストラリア、カナダ、スイス及びニュージーランド並びにEU

- ・有機食品の輸出拡大には、有機畜産物及び畜産物を含む有機加工食品への同等性の**対象範囲の拡大**と有機加工食品の**原料原産地の制限撤廃**が必要

成果・効果

農林水産省とEUとの有機同等性協議への対応として、FAMICにおいて次の業務を実施。

- ・EUの有機制度及び有機JAS制度との相違点の調査
- ・EUが行う有機JAS制度への審査に対する対応（EUからの質問に対する回答等）
- ・農林水産省が行う二国間協議のサポート（Web会議への参加等）

対象範囲が拡大し、有機畜産物及び畜産物を含む有機加工食品が輸出可能に！

有機加工食品の**原料原産地の制限撤廃**が実現し、日本の同等国以外の国の有機JAS認証品を加工食品の原料として使用することが可能に！



Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

11

12 日本農林規格に関する業務(国際規格に係る業務)

評価書P51

評価
A

輸出拡大実行戦略の**重点品目**の**国際標準化**に必要な国内外の体制及び環境を整備し、日本の農林水産物・食品の**輸出促進の体制整備に貢献**！！

背景・課題

- ・牛肉、豚肉、**ぶり、たい**などは輸出拡大実行戦略の**重点品目**の一つ

- ・海外では、日本の**鮮度保持技術**である「**活〆**」は魚体に傷があるという理由で**正**当に評価されない

- ・日本の鮮度保持技術を科学的に示せる「**魚の鮮度(K値)試験方法**」の**国際標準化**が有効

肉、魚等に関する国際標準化に必要な国内外の体制及び環境の整備が必要

取組の内容

- ・肉、魚等に関するISO規格の開発を行っている**TC34/SC6の国内審議団体を引受け**

- ・TC34/SC6の国内専門家登録、新規提案等の投票が実施できる**参加地位(Pメンバー)に変更**

- ・国内対策委員会を設置・開催し、「魚の鮮度(K値)試験方法」の**ISO提案**について**承認**を得た後、研究機関等と協力して**規格案を作成**

- ・TC34/SC6参加国等に対しK値についてプレゼンテーションし、**海外の専門家と信頼関係を構築**



成果・効果

- ・肉、魚等に関する**国際標準化**に対応できる**国内の体制を構築**

- ・TC34/SC6参加国等と議論に必要な信頼関係を構築

- ・令和7年6月に開催予定のTC34/SC6総会で、プレゼンテーションを行い、

「魚の鮮度(K値)試験方法」をISOの新規作業に提案予定

日本の農林水産物・食品の輸出拡大への貢献を期待！！

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

12

13 情報提供業務(農業生産資材、食品の安全性、JAS、食品表示等に関する情報等)

評価書P64

評価 A Xによる情報発信を開始。イベントでは名刺サイズのカードを配布。さらにYouTubeによる業務の紹介でFAMICの認知度が向上

背景・課題

現状

ホームページ、広報誌、メールマガジンなどで、農業生産資材（肥料、農薬、飼料など）、食品の安全性、JAS、食品表示等に関する制度、情報、科学的知見、検査結果などを情報発信

課題

特定の事業者だけでなく、広く**学生や消費者**にも、FAMICの取組みを知ってもらいたい！！

取組の内容

- 本部及び地域センターからSNSメンバーを15名から23名に増員し、**X(旧Twitter)による情報発信を新たに開始**
- イベントでは、**FAMICカード、JASカード、花カード(QRコードでホームページ上の情報にリンク)**を来場者に**配布**



成果・効果

- Xを使用したことで、各種セミナー、採用情報などの**閲覧数が増加。学生への認知度が向上**
- クイズを取り入れるなど、消費者にささる内容による情報提供が好評

学生などこれまでと異なる年齢層の消費者に対し、食の安全に関する情報やFAMICの役割を広く周知

Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

13

14 自己収入の確保

評価書P81

評価 A 無料で実施してきた依頼業務の有料化、改正した手数料規程に基づき運用を開始するなど、**自己収入の倍増**（対令和5年度実績）に向けた体制を整備

背景・課題

新たな目標

- 財務内容の改善のため、年度目標において令和10年度までに令和5年度を基準として**自己収入を倍増**することが指示された

課題

- 様々な業務で**収入を増加**させる必要
- 依頼に応じて行う業務は、金額の上昇に伴い、**依頼が減少する可能性**

取組の内容

体制整備

- 有料化**する業務の**洗い出し**
- 対象業務を増やすためFAMICの**技術や知識のシーズ、関係機関のニーズ**を確認し、業務受託のための体制を整備
- 新たな研究資金**の獲得のための体制を整備

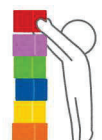
規程類の改正・運用

- 規程類を改定し、**内部手続を簡素化**
- 準備に係る経費、間接的に係る経費等を徴収する改定をした**手数料規程**を適切に運用。スムーズな受入のため、依頼者への説明、調整を丁寧に実施

成果・効果

- 新たな業務受託の**シーズやニーズ**を発見
- 研究業務の受託に着手**
- 従前からの依頼業務は手数料の大幅改訂にかかわらず、**混乱なく前年どおり実施**

自己収入の倍増に向けて体制を整備し、取組を着実に実施



Copyright(C) Food and Agricultural Materials Inspection Center. All Rights Reserved.

14

評価

A

法人の長のトップマネジメントによって自ら業務改革に取り組み、より一層の効率的・効果的な業務運営の実現に向け、改善に係る取組を大きく推進

背景・課題

- ・年度目標において**常勤職員数の削減**に取り組むよう指示
一方で・・・
- ・**業務の正確・確実な執行体制を維持**することが必要
- ・**理事長をトップ**とし、すべての理事と部長等をメンバーとする会議で対応を検討



取組の内容

- ・**すべての業務を対象に、次の調査**を実施
 - ① 業務内容の列挙や**科学力の発揮**などの特性の区分け
 - ② 各業務で行っている具体的な作業項目の洗い出しと実施状況
- ・調査結果を基に**理事長自ら**が各部と**意見交換**を実施し、法人の**現状**について**詳細に把握**

取り組むべき課題が具体化

- ・人員・予算など資源配分の転換
- ・求められる**技術力を一層高める**ために、**分析部門の連携体制を強化**する必要

成果・効果

- ・FAMICが実施する業務の**社会的必要性**及び**行政コストを意識**する組織風土が醸成
- ・法人の長のトップマネジメントによる調査・検討の結果、**今後の組織のあり方**が示されことを受け、組織改変も含めた具体的な検討を開始

効率的・効果的な業務運営の実現に向け大きく前進！！